

令和5年度成人用肺炎球菌ワクチン定期予防接種

～説明書～

成人用肺炎球菌ワクチンの予防接種を希望される方は、この説明書をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解し、実施医療機関で接種して下さい。十分に納得できない場合には接種しないでください。

- ※ 予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける方が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。
- ※ 接種を受けることの義務はなく、本人が接種を希望する場合に限り接種を行います。接種を希望しない人に、予防接種をすることはありません。
- ※ 初めて高齢者肺炎球菌ワクチンを受ける方のみ対象となります。
(任意・定期接種に関わらず、接種歴のある方は対象外です。)

定期接種の対象者は以下の二つに該当する方です。
対象となる期間は令和5年4月1日から令和6年3月31日までです。

● 今までこのワクチンを接種したことがない

● 以下の生年月日の方

昭和33年4月2日生～ 昭和34年4月1日生の方	昭和13年4月2日生～ 昭和14年4月1日生の方
昭和28年4月2日生～ 昭和29年4月1日生の方	昭和8年4月2日生～ 昭和9年4月1日生の方
昭和23年4月2日生～ 昭和24年4月1日生の方	昭和3年4月2日生～ 昭和4年4月1日生の方
昭和18年4月2日生～ 昭和19年4月1日生の方	大正12年4月2日生～ 大正13年4月1日生の方

60歳以上65歳未満で、心臓、じん臓もしくは呼吸器の機能又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害を有する方（インフルエンザの定期接種対象者と同じ）も対象。

1. 肺炎球菌感染症とは

肺炎球菌は、のどや鼻に入る細菌で、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎、肺炎を引き起こします。また、成人肺炎の25～40%を占めており、特に高齢者での重症化が問題になっています。

2. 予防接種の効果

肺炎球菌には約90種類の型があり、そのうち成人でも病気を起こしやすい23種類の型に対して免疫をつけることができます。全ての肺炎を予防するものではありません。接種してから免疫（抗体）ができるまで、およそ3週間かかります。1回の接種で、健康な人では少なくとも5年間は効果が持続すると言われています。効果には個人差があります。

3. 肺炎球菌予防接種の副反応

接種後に、注射を受けた部位がはれたり、痛んだり、ときに軽い発熱が見られることがあります。通常1～2日のうちに治ります。
筋肉痛、だるさ、違和感、寒気、頭痛、発熱が現れる場合もありますが、いずれも軽度で2～3日で消失します。

4. 予防接種を受けることが適当でない方

- (1) 明らかに発熱がある方
- (2) 重い急性疾患にかかっている方
- (3) 予防接種の接種液の成分で、アナフィラキシーショックを起こしたことがある方
※アナフィラキシーショックとは、通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐(おうと)、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応のことです。
- (4) その他、予防接種を受けることが不適当な状態にあると医師が判断した方

5. 予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない方

健康状態及び体質を勘案し、次のいずれかに該当すると認められる場合には、担当医師とご相談ください。

- (1) 心臓血管系の疾患、じん臓疾患、肝臓疾患、血液疾患及び発育障害等の基礎疾患を有する方
- (2) 予防接種で接種後2日以内に発熱の見られた方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を起こした方
- (3) 過去にけいれんを起こしたことがある方
- (4) 過去に免疫不全の診断がされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- (5) ワクチンの成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方

6. 予防接種を受けた後の注意

- (1) 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）と連絡を取れるようにしておきましょう。
- (2) 接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けてください。
(接種当日の入浴は差し支えありません。ただし、注射したところをこすらないでください。)
- (3) 接種後に発熱したり、接種した部位が腫れたり、赤くなったりすることがありますが、一般にその症状は軽く、通常、数日中に消失します。
- (4) 接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたら、ただちに医師（医療機関）の診療をうけてください。